

平成21年度局配分枠予算について

総務局

1 局配分枠予算編成に当たっての考え方

総務局配分枠予算は、96%が人件費、残る4%が物件費という構成になっている。

極めて深刻な本市の危機的な財政状況から、人件費については、「京都未来まちづくりプラン」に基づき必要額の精査を行った。また、事務事業の見直しによる市民生活への影響を可能な限り抑制するため、緊急の人件費抑制策として全職員の給与減額措置や職員厚生会事業主負担の凍結を実施し、財源不足の解消に努めた。

物件費については、総務局予算の多くを占める内部管理及び維持管理的な経費に対し、これまで以上に精査を行い、経費の節減に努めた一方で、「京都未来まちづくりプラン」の内容を着実に実行できるよう、限られた財源の中で効率的な予算の編成に努めた。

2 局配分枠予算における主な新規・充実事業

<新規事業>

国際社会における京都の魅力発信力の拡大 (世界歴史都市連盟事務局運営事務)	1,400千円
京都から世界に向けた文化の発信 ～京都市国際交流会館20周年記念事業～	5,545千円
ボストンとの姉妹都市交流50周年記念事業 (日本におけるボストンを知るイベントの実施、両市代表団の相互派遣)	全体事業費 15,623千円(うち局配分枠 8,623千円)
京都市立芸術大学改革基本計画(仮称)の策定	4,900千円
京都市立芸術大学と他機関や学校等との連携による芸術文化の推進事業	901千円
財政健全化法に基づく個別外部監査の実施	30,000千円
頑張る職員、意欲あふれる職員の表彰	1,200千円
緊急雇用対策に伴い実施する臨時的任用職員の雇用	50,000千円

<充実事業>

総務事務の効率化	全体事業費 645,000千円(うち充実分 276,000千円)
職員研修助言者会議の設置	全体事業費 741千円(うち充実分 661千円)